

臨床指標(クオリティ・インディケーター)

臨床指標(クオリティ・インディケーター：QI)とは、医療の質を定量的に評価する指標のことで、医療の過程や結果から課題や改善点を見つけ出し、医療の質の向上を目的とするものです。

医療の質は、

- 1 構造(ストラクチャー Structure)：施設、医療機器、スタッフの職種や人数など
- 2 過程(プロセス Process)：実際に行われた診療や看護の内容
- 3 結果(アウトカム Outcome)：診療や看護の結果としての状態

の3つの側面について評価されることが一般的です。

当院では、2017年度から日本病院会「QIプロジェクト」に参加しております。QIプロジェクトは、「自院の診療の質を知り、経時的に改善する」ことを目的とし、医療の質を測定、評価、公表するための指標の検討と各病院でPDCAサイクルを病院の運営管理の手法に組み込むことを促す役割を担っています。

病院全体に関する指標

診療実績

	2021年度	2022年度	2023年度
延べ外来患者数(人)	202,224	201,214	197,917
1日平均外来患者数(人)	835.6	828.0	814.5
延べ入院患者数(人)	103,817	99,562	104,626
実入院患者数(人)	9,596	9,251	9,491
1日平均入院患者数(人)	284	273	286
平均在院日数(全体)(日)	10.8	10.8	11.0
平均在院日数(一般病床)(日)	10.9	10.8	11.0
平均在院日数(地域包括ケア病棟)(日)	5.9	6.8	9.1
病床利用率(%)	76.4	73.2	76.6
救急車搬送数(人)	3,526	3,882	4,055
救急ヘリ搬送数(人)	30	26	29
救急ヘリ搬出数(人)	1	2	0
手術件数(件)※1	5,261	5,650	5,651
全身麻酔件数(件)	2,279	2,407	2,460
分娩件数(件)	1,023	944	900

※1 手術室で実施した件数

医療の質に関する指標

入院患者の転倒・転落発生率

入院患者の転倒・転落による損傷発生率(レベル2以上・レベル4以上)
65歳以上の入院患者における転倒・転落発生率

アウトカム
指標

原因としては、入院という環境の変化によるものや疾患そのもの、治療・手術などによる身体的なものなどさまざまなものがあります。転倒・転落の指標としては、転倒・転落によって患者に傷害が発生した損傷発生率と、患者への傷害に至らなかった転倒・転落事例の発生率との両者を指標とすることに意味があります。

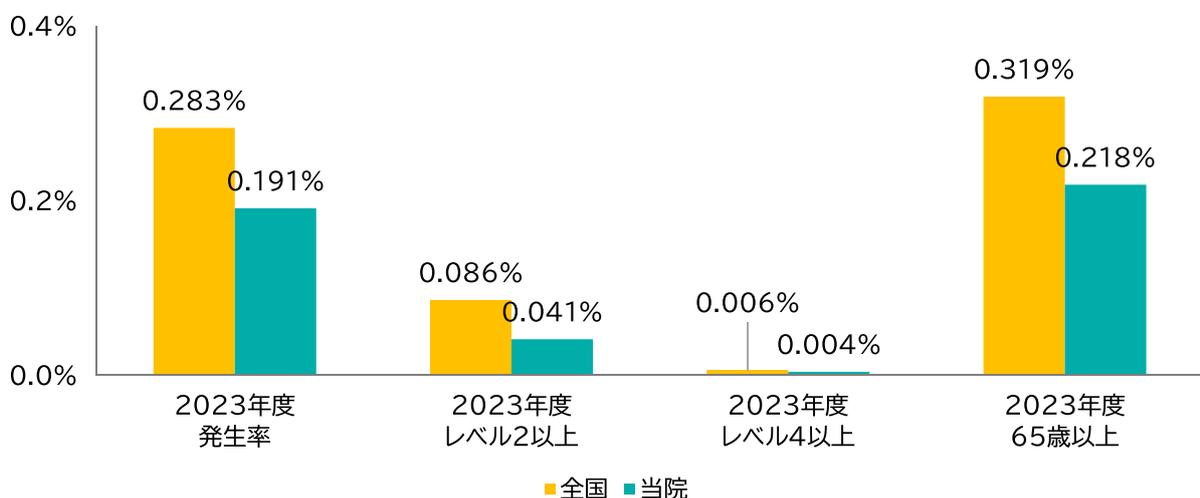
転倒・転落による傷害発生事例の件数は少なくても、それより多く発生している傷害に至らなかった事例もあわせて報告して発生件数を追跡するとともに、それらの事例を分析することで、より転倒・転落発生要因を特定しやすくなります。こうした事例分析から導かれた予防策を実施して転倒・転落発生リスクを低減していく取り組みが、転倒による傷害予防につながります。

計算方法

分子	入院中の患者に発生した転倒・転落件数
	入院中の患者に発生した損傷レベル2・4以上の転倒・転落件数
分母	入院患者延べ数(人日)

損傷レベル(The Joint Commission)

1 なし	患者に損傷はなかった
2 軽度	包帯、氷、創傷洗浄、四肢の挙上、局所薬が必要となった、あざ・擦り傷を招いた
3 中軽度	縫合、ステリー・皮膚接着剤、副子が必要となった、または筋肉・関節の挫傷を招いた
4 重度	手術、ギプス、牽引、骨折を招いた・必要となった、または神経損傷・身体内部の損傷の診察が必要となった
5 死亡	転倒による損傷の結果、患者が死亡した
6 UTD	記録からは判定不可能



褥瘡は患者さんの QOL の低下をきたすとともに、感染を引き起こすなど治癒が長期に及ぶことによって、結果的に在院日数の長期化や医療費の増大にもつながります。

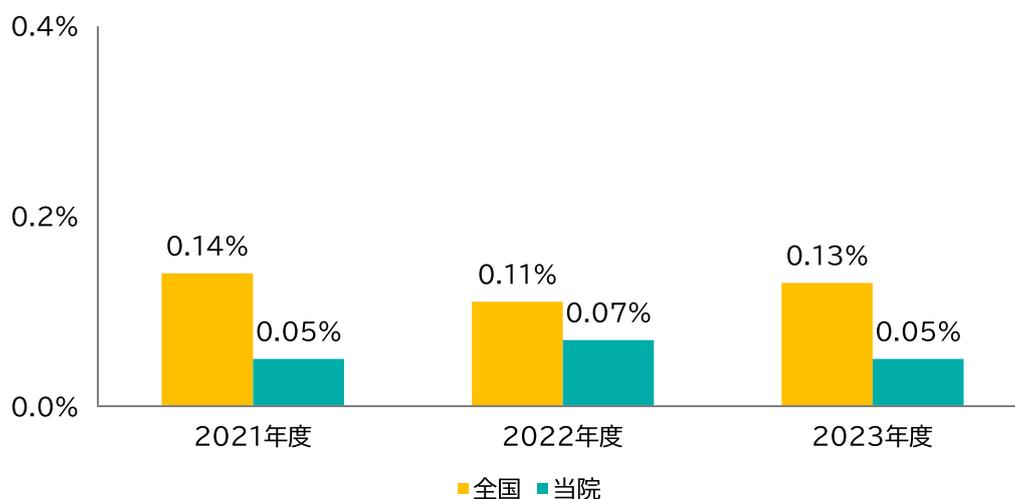
そのため、褥瘡予防対策は、提供する医療の重要な項目の1つにとらえられています。

計算方法

分子	d2(真皮までの損傷)以上の院内新規褥瘡発生患者数
分母	同日入退院患者または褥瘡持込患者または調査月間以前の院内新規褥瘡発生患者を除く入院患者延べ数(人日)
除外	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同日入退院の患者 ・ 入院時刻から 24 時間以内に DESIGN-R の Depth(深さ)が d1,d2, D3, D4, D5, DU のいずれかの記録がある患者 ・ 同一入院期間中の調査月間以前に院内新規褥瘡があった患者

日本褥瘡学会 DESIGN-R(2008 年改訂版褥瘡経過評価用)による褥瘡の深さ基準

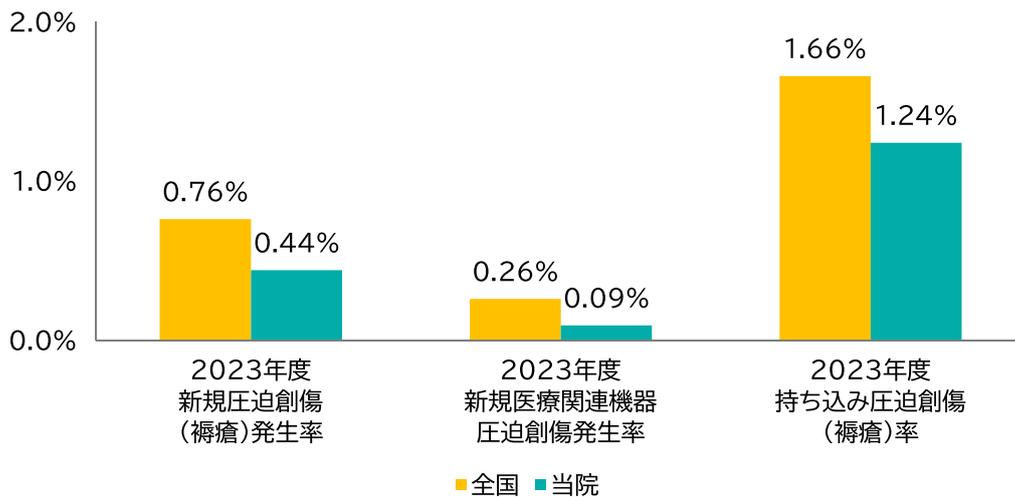
d0	皮膚損傷・発赤なし
d1	持続する発赤
d2	真皮までの損傷
D3	皮下組織までの損傷
D4	皮下組織をこえる損傷
D5	関節腔、体腔に至る損傷
DU	深さ判定が不能の場合



圧迫創傷とは、通常は骨の突出部位において、皮膚及び皮膚下層の軟部組織に生じる局所的な損傷を指します。医療機器関連圧迫傷は、診断または治療に使用される器具や医療機器の使用に起因する圧迫創傷です。持ち込み圧迫創傷率は改善することが一般的に困難な指標であり、圧迫創傷を持ち込む新規入院患者が入院患者のうち、どの程度かをみるものです。

計算方法

新規圧迫創傷(褥瘡)発生率	分子	調査期間中に d2(真皮までの損傷)以上の院内新規圧迫創傷発生患者数
	分母	調査期間初日0時時点の入院患者数+調査期間に新たに入院した患者数
新規医療関連機器圧迫創傷(MDRPI)発生率	分子	調査月の新規医療関連機器圧迫創傷(Medical Device Related Pressure Injury:MDRPI)発生患者数
	分母	調査期間初日0時時点の入院患者数+調査機関に入院した患者数
持ち込み圧迫創傷(褥瘡)率	分子	入院後 24 時間以内に圧迫創傷発生の記録がある患者数
	分母	調査期間に新たに入院した患者数



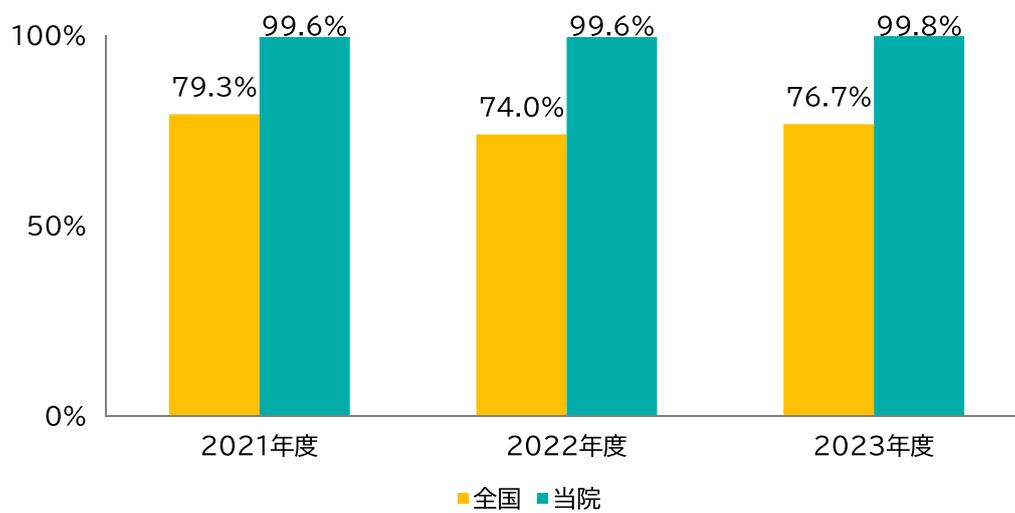
救急車・ホットライン応需率

プロセス指標

救急医療の機能を測る指標であり、救急車受け入れ要請のうち、何台受け入れができたのかを表しています。救命救急センターに関連する部署だけの努力では改善できません。救急診療を担当する医療者の人数、診療の効率化、入院を受け入れる病棟看護師や各診療科の協力など、さまざまな要素がかかります。

計算方法

分子	救急車で来院した患者数
分母	救急車受け入れ要請件数
除外	他院からの搬送(転送)件数



特定術式における術後 24 時間以内*の予防的抗菌薬投与停止率 （*心臓手術は 48 時間以内）

プロセス指標

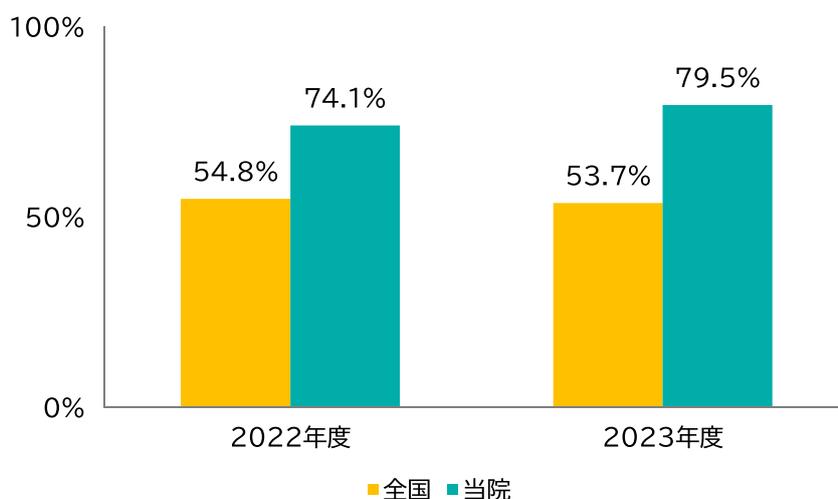
手術後に、手術部位感染(Surgical Site Infection : SSI)が発生すると、入院期間が延長し、入院医療費が有意に増大します。SSI を予防する対策の一つとして、手術前後の抗菌薬投与があり、手術開始から終了後 2～3 時間まで、血中および組織中の抗菌薬濃度を適切に保つことで、SSI を予防できる可能性が高くなります。このため手術執刀開始の 1 時間以内に、適切な抗菌薬を静注することで、SSI を予防し、入院期間の延長や医療費の増大を抑えることができると考えられています。

本指標は The Joint Commission の NQF-ENDORSED VOLUNTARY CONSENSUS STANDARDS FOR HOSPITAL CARE の Surgical Care Improvement Project(SCIP)の SCIP-Inf-3 準拠した定義です。

術式は国内、国外のガイドラインの推奨グレードが異なることより、2019 年度から、股関節人工骨頭置換術、膝関節置換術、血管手術を除いた、冠動脈バイパス手術、その他の心臓手術、大腸手術、子宮全摘除術の 4 つを対象に変更しました。注射薬だけでなく内服薬も抗菌薬の対象としています。

計算方法

分子	術後 24 時間以内(冠動脈バイパス手術またはその他の心臓手術の場合 48 時間以内)に予防的抗菌薬投与が停止された手術件数
分母	特定術式の手術件数(冠動脈バイパス手術、その他の心臓手術、大腸手術、子宮全摘除術)



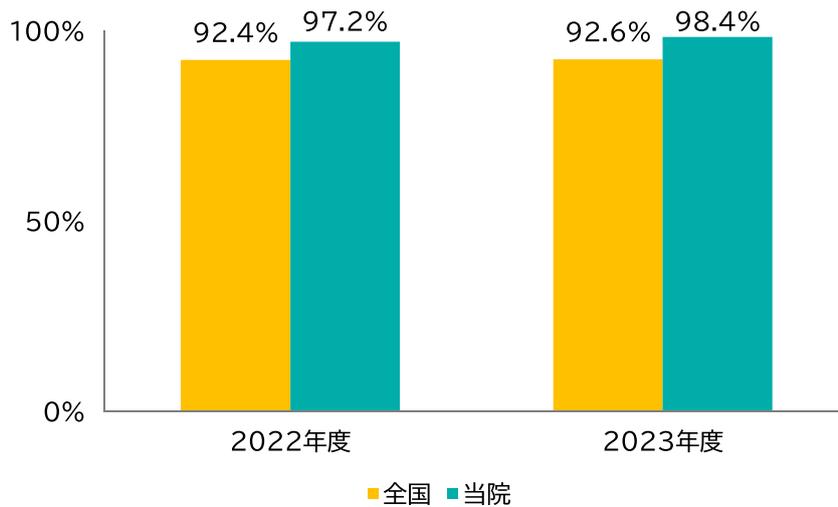
手術後に、手術部位感染(Surgical Site Infection : SSI)が発生すると、入院期間が延長し、入院医療費が有意に増大します。SSI を予防する対策の一つとして、手術前後の抗菌薬投与があり、手術開始から終了後 2～3 時間まで、血中および組織中の抗菌薬濃度を適切に保つことで、SSI を予防できる可能性が高くなります。このため手術執刀開始の 1 時間以内に、適切な抗菌薬を静注することで、SSI を予防し、入院期間の延長や医療費の増大を抑えることができると考えられています。

本指標は The Joint Commission の NQF-ENDORSED VOLUNTARY CONSENSUS STANDARDS FOR HOSPITAL CARE の Surgical Care Improvement Project(SCIP)の SCIP-Inf-2 に準拠した定義です。

術式は「特定術式における手術開始前 1 時間以内の予防的抗菌薬投与率」と同様に、冠動脈バイパス手術、その他の心臓手術、股関節人工骨頭置換術、膝関節置換術、血管手術、大腸手術、子宮全摘除術の 7 つ、注射薬だけでなく内服薬も抗菌薬の対象としています。

計算方法

分子	術式ごとに適切な予防的抗菌薬が選択された手術件数
分母	特定術式の手術件数(冠動脈バイパス手術、その他の心臓手術、股関節人工骨頭置換術、膝関節置換術、血管手術、大腸手術、子宮全摘除術)



脳梗塞における入院後早期リハビリ実施症例の割合

プロセス指標

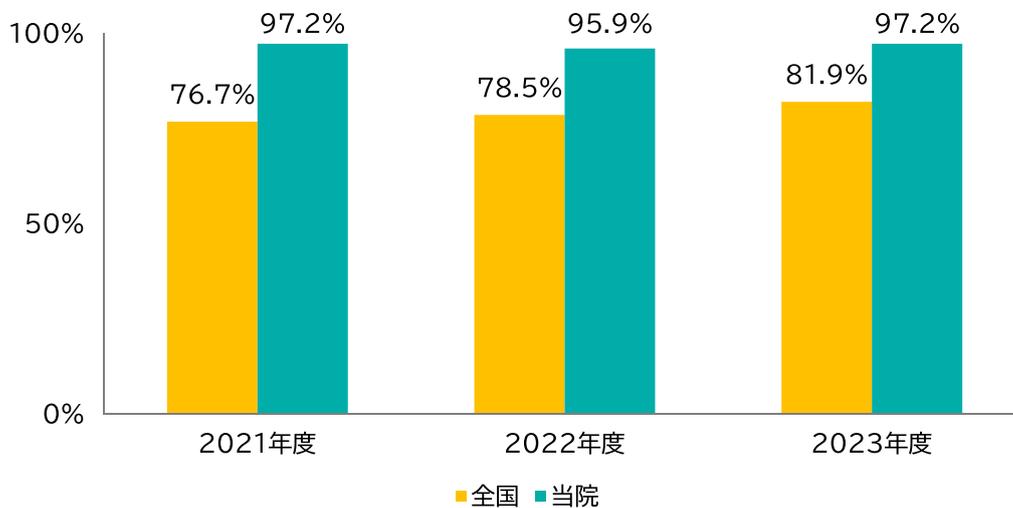
脳卒中患者では早期にリハビリテーションを開始することで、機能予後をよくし、再発リスクの増加もみられず、ADLの退院時到達レベルを犠牲にせず入院期間が短縮されることが分かっています。

わが国の脳卒中治療ガイドライン 2015 では、「不動・廃用症候群を予防し、早期の日常生活動作(ADL)向上と社会復帰を図るために、十分なリスク管理のもとにできるだけ発症後早期から積極的なリハビリテーションを行うことが強く勧められている(グレード A)」と書かれています。

したがって、適応のある患者には早期からリハビリテーションが開始されていることが望まれます。

計算方法

分子	分母のうち、入院後早期(3日以内)に脳血管リハビリテーションが行われた症例数
分母	脳梗塞で入院した症例数



糖尿病・慢性腎臓病症例への栄養管理実施率

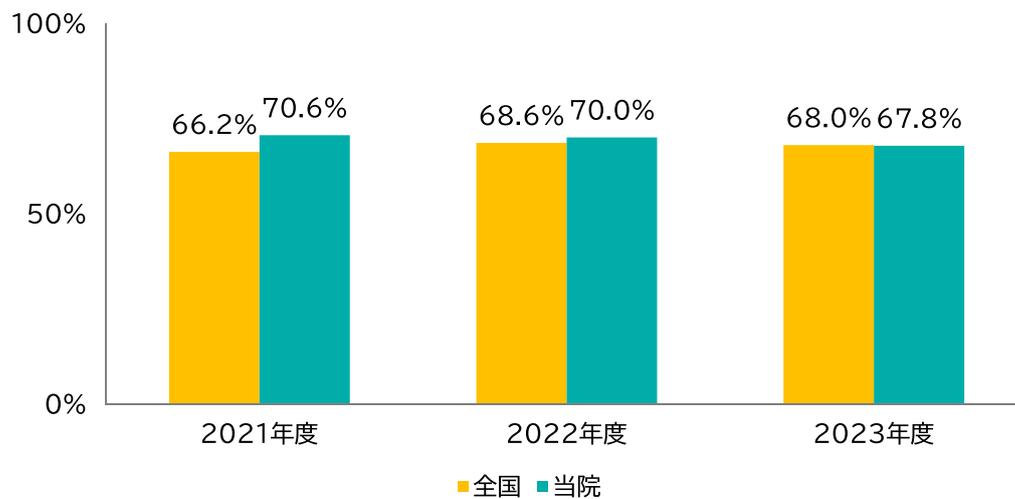
プロセス指標

糖尿病や慢性腎臓病は、食事も重要な治療の一つです。入院時に提供される食事には、通常食と治療のために減塩や低脂肪などに配慮した特別食があります。

積極的に栄養管理の介入を行うことも、医療の質の向上につながります。

計算方法

分子	分母のうち特別食加算の算定回数
分母	18歳以上の糖尿病・慢性腎臓病症例で、それらへの治療が主目的ではない入院症例の食事回数



抗 MRSA 薬投与に対する薬物血中濃度測定割合

プロセス指標

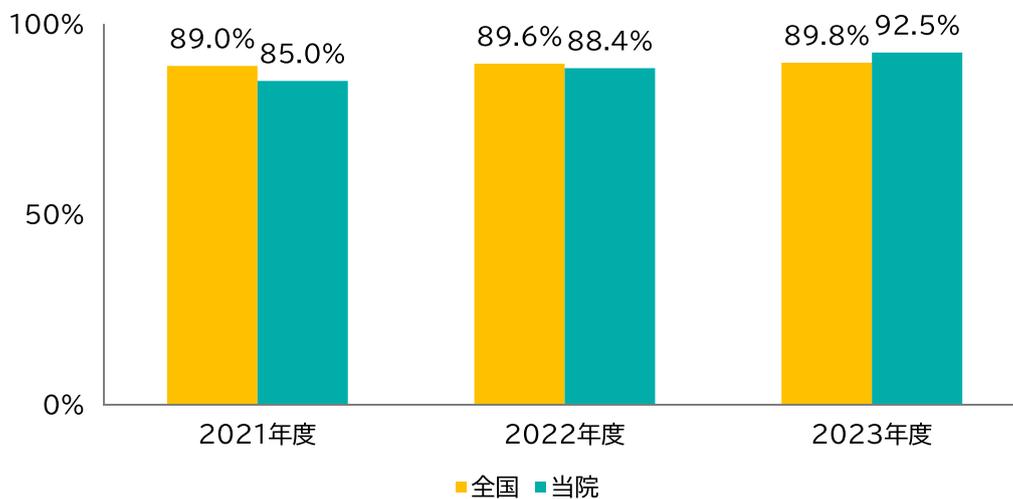
抗 MRSA 薬とは、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)に対して効果がある抗生物質のことです。MRSA は、通常の抗生物質に対して耐性を持っているため、治療が難しくなります。

抗 MRSA 薬を使う際には、血中の薬の濃度を適切に保ち、副作用を減らすために「治療薬物モニタリング (TDM)」が重要です。このため、TDM を行うべき症例を以下の基準で決めました。

具体的には、バンコマイシンやテイコプラニン、アルベカシンを 4 日以上投与している患者については、TDM を実施する必要がある、または望ましい症例としました。

計算方法

分子	分母のうち薬物血中濃度を測定された症例数
分母	TDM を行うべき抗 MRSA 薬を投与された症例



血液培養実施時の 2 セット実施率

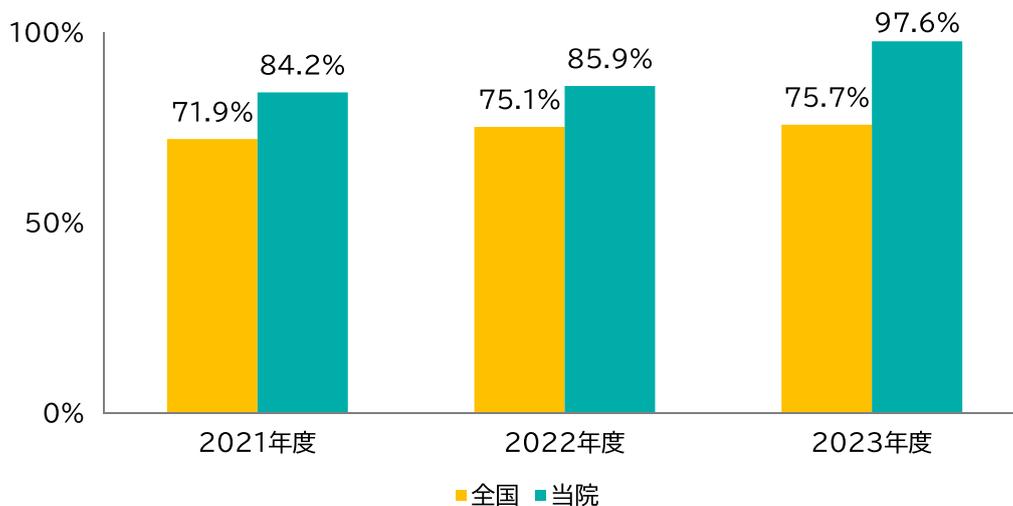
プロセス指標

広域抗菌薬は、使用前までの最近培養検査、投与開始時の血液培養検査は、望ましいプラクティスとなります。また、血液培養は 1 セットのみの場合の偽陽性による過剰治療を防ぐため、2 セット以上行うことが推奨されています。

計算方法

分子	血液培養オーダーが 1 日に 2 件以上ある日数(人日)
分母	血液培養オーダー日数(人日)

≪血液培養検査における同日 2 セット以上の実施割合(全年齢)≫



≪血液培養検査における同日 2 セット以上の実施割合(6 歳以上)≫



大腿骨頸部骨折、大腿骨転子部骨折の早期手術割合

プロセス指標

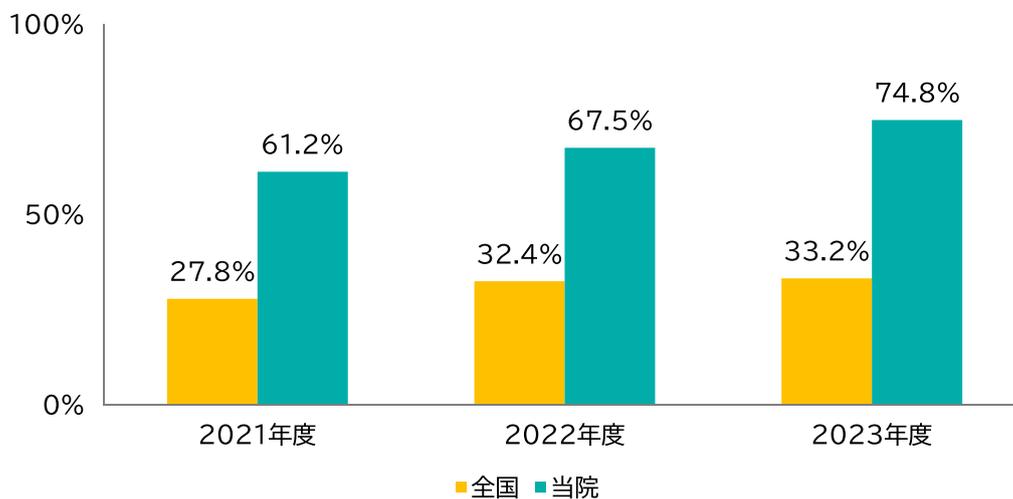
大腿骨頸部骨折や大腿骨転子部骨折は、ガイドラインではできる限り早期の手術を推奨されています(Grade B 大腿骨頸部／転子部骨折診療ガイドライン 改訂第2版)。

「早期」の厳密な説明は示されていませんが、本指標では、各手術について、入院2日以内に手術を受けた症例数として計測を行いました。

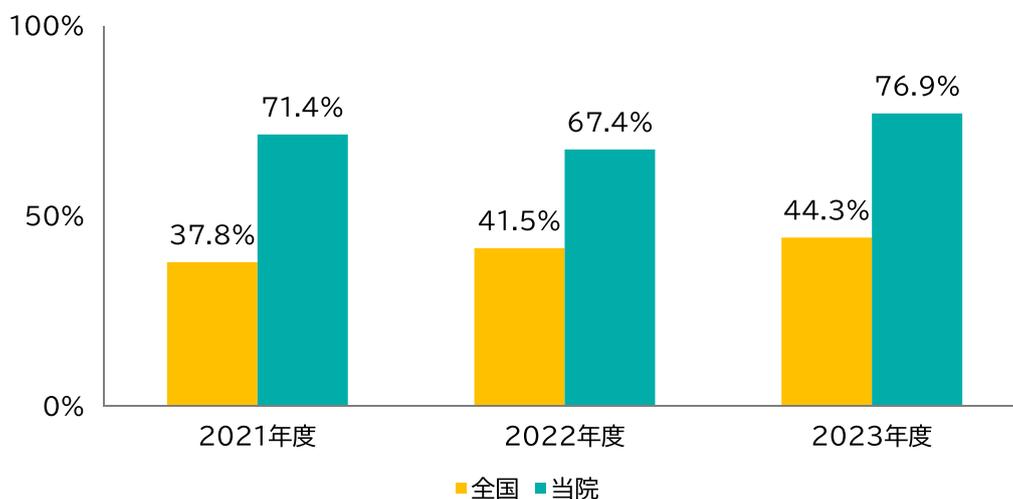
計算方法

分子	分母のうち、入院2日以内に手術を受けた患者数
分母	大腿骨頸部骨折で入院し、大腿骨折の手術を受けた患者数
	大腿骨転子部骨折で入院し、大腿骨折の手術を受けた患者数

《大腿骨頸部骨折》



《大腿骨転子部骨折》



シスプラチンを含むがん薬物療法後の急性期予防的制吐剤投与率

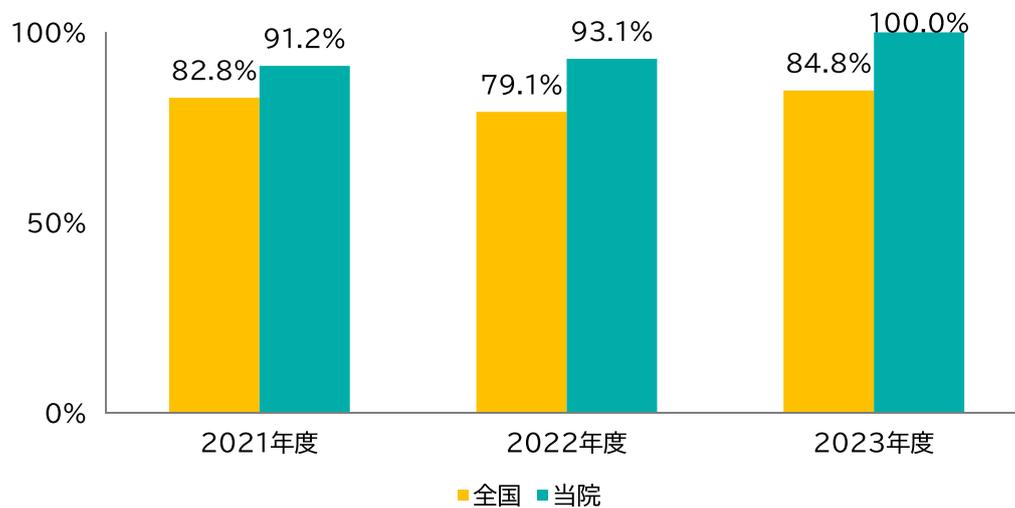
プロセス指標

良好な治療アドヒアランスを得て化学療法を円滑に進めるために、催吐リスクに応じた予防的な制吐剤の使用は重要です。高度の抗がん薬による急性の悪心・嘔吐に対しては、NK1 受容体拮抗薬と 5HT3 受容体拮抗薬およびデキサメタゾンを併用することが推奨されています(グレード A 一般社団法人 日本癌治療学会編 制吐薬適正使用ガイドライン 2015 年 10 月【第 2 版】)。

シスプラチンは「高度催吐性リスク」に分類されており、本指標には、この 3 剤の制吐剤が利用されているかどうかを測定しています。

計算方法

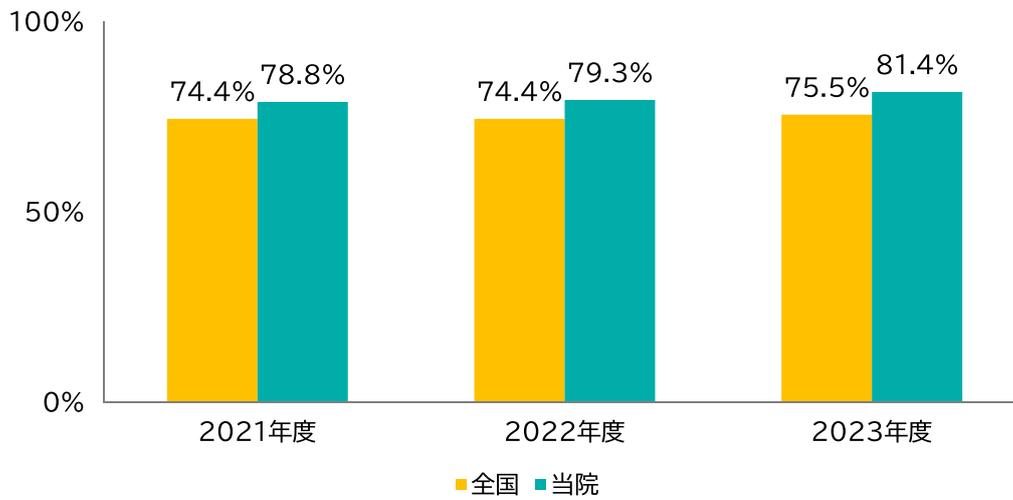
分子	分母の実施日の前日または当日に、5HT3 受容体拮抗薬、NK1 受容体拮抗薬およびデキサメタゾンの 3 剤すべてを併用した数
分母	入院にてシスプラチンを含む化学療法を受けた 18 歳以上の患者の実施日数



薬剤師の薬学的管理指導は、医療改善につながります。また、服薬指導により薬物療法に対する安全性や有用性を患者さんが認識すれば、アドヒアランスの向上(患者さんが積極的に治療方針の決定に参加し、その決定にそって治療を受けること)に繋がると期待されています。

計算方法

分子	分母のうち、薬剤管理指導を受けた患者数
分母	入院患者数



脳卒中患者に対する地域連携の実施割合

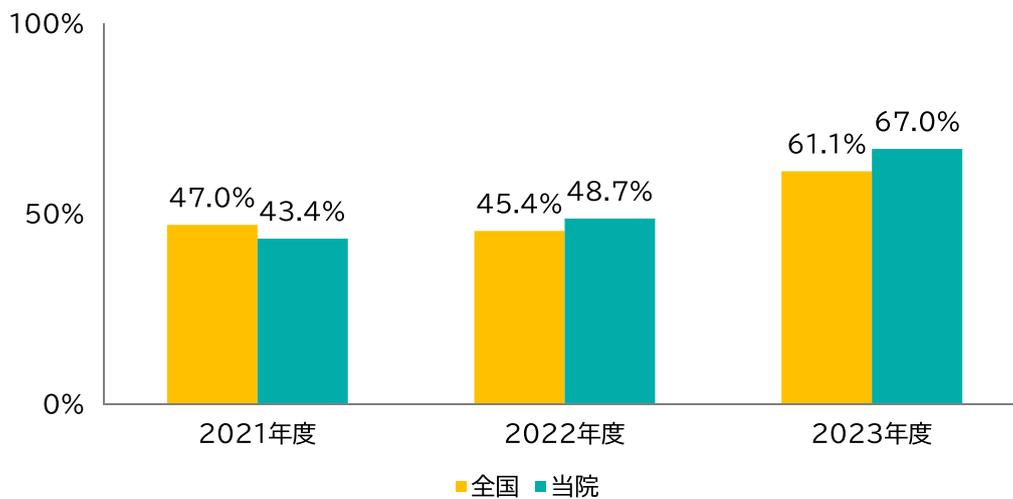
プロセス指標

脳卒中の治療は、急性期の治療後も継続的な医学的管理とリハビリテーションが重要です。

脳卒中患者に対する地域連携パスの使用など地域連携に関連した実施率をみることは、地域医療に関する医療体制を評価することにつながります。

計算方法

分子	分母のうち地域連携に関する算定のある患者数
分母	脳卒中で入院した患者数



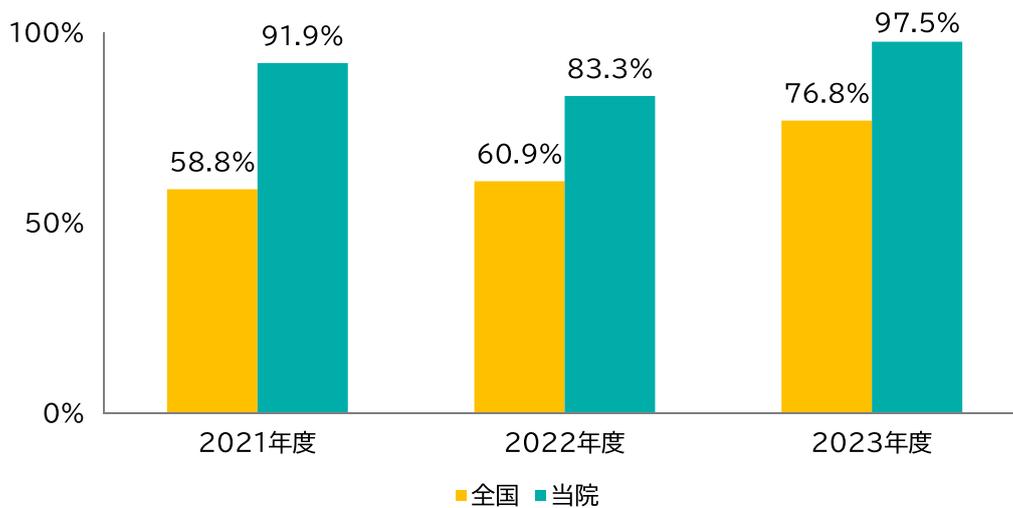
大腿骨頸部骨折患者に対する地域連携の実施割合

プロセス指標

大腿骨頸部骨折の治療は、急性期の治療後も継続的な医学的管理とリハビリテーションが重要です。大腿骨頸部骨折患者に対する地域連携パスの使用など地域連携に関連した実施率をみることは、地域医療に関する医療体制を評価することにつながります。

計算方法

分子	分母のうち地域連携に関する算定のある患者数
分母	大腿骨頸部骨折で入院し、大腿骨頸部の手術を受けた患者数



紹介割合とは、初診患者に対し、他の医療機関から紹介されて来院した患者と救急患者における割合です。

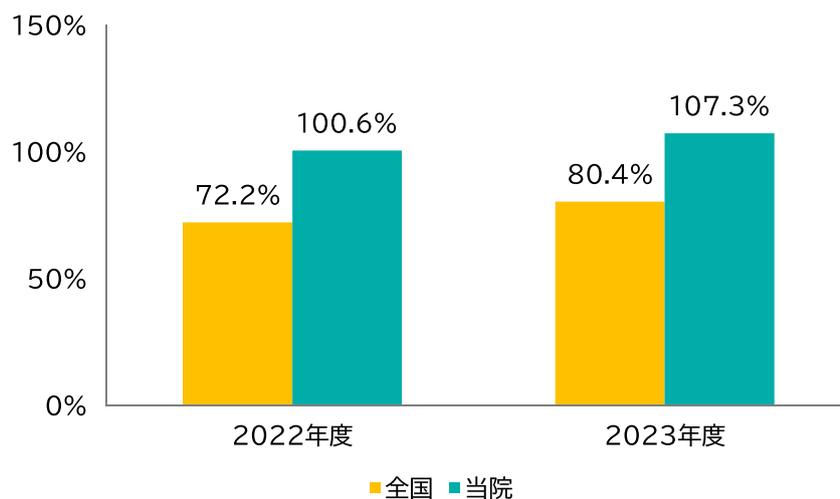
逆紹介割合とは、初診患者と再診患者に対し、他の医療機関へ紹介した患者の割合です。

高度な医療を提供する医療機関にだけ患者が集中することを避け、症状が軽い場合は「かかりつけ医」を受診し、そこで必要性があると判断された場合に高い機能を持つ病院を紹介受診する、そして治療を終え症状が落ち着いたら、「かかりつけ医」へ紹介し、治療を継続または経過を観察する、これを地域全体として行うことで、地域の医療連携を強化し、切れ間のない医療の提供を行います。

計算方法

紹介割合	分子	紹介患者数+救急患者数
	分母	初診患者数
逆紹介割合	分子	逆紹介患者数
	分母	初診+再診患者数

《紹介割合》



《逆紹介割合》

